

学科名	建築・デザイン学科							
科目名	建築と環境							
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	2年前期			
必修・選択の別	必修科目(建築工学コース)/選択科目(建築コース)/選択科目(デザインコース)							
担当者	依田 浩敏							
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築室内環境に関する基本的知識を理解し、説明できる。(B3)</li> <li>・ 建築室内環境の快適性を図るための技術的方法を理解し、説明できる。(B3)</li> <li>・ 建築環境設計に関わる演習を行うことにより応用能力を養い、環境工学的視点からの計画ができる。(B3)</li> <li>・ 建築技術者として、環境問題に対してどのように関わるべきかを理解し、説明できる。(A5,B3)</li> </ul>							
日程と内容	4/10 導入講義：授業の進め方と概要の説明、成績評価法 4/24 伝熱(熱の伝わり方、断熱、断熱と熱容量) 5/1 室内環境の快適性(室内環境の構成要素、温度感覚、温度指標、快適範囲) 5/8 日照・日影1(太陽位置、日照率、日影曲線、日影と建物の配置) 5/15 日照・日影2(日影曲線、日影と建物の配置) 5/22 採光(屋光、採光設計、窓の位置と形) 5/29 照明(照明の基本計画、所要照度) 6/5 結露1(結露現象、壁体各部の温度、表面結露防止) 6/12 結露2(内部結露防止) 6/19 空気汚染(空気質、シックハウス対策) 6/26 音響(残響時間と明瞭度、音響計画上の悪条件とその対策) 7/3 室内音響計画(残響時間) 7/3 【補講】レポート課題(谷崎潤一郎『陰翳礼讃』の建築環境工学的視点) 7/10 定期試験に向けた総合演習(60分)と解説(30分) 7/17 定期試験(60分) 7/24 定期試験解説							
成績評価基準	定期試験	60%	実技	0%	臨時試験	0%	部外評価	0%
	報告書・レポート	0%	プレゼンテーション	0%	課題	20%	計	100%
	演習	20%						
授業到達目標の達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築室内環境に関する基本的知識を理解し、説明できる。:達成した</li> <li>・ 建築室内環境の快適性を図るための技術的方法を理解し、説明できる。:達成した</li> <li>・ 建築環境設計に関わる演習を行うことにより応用能力を養い、環境工学的視点からの計画ができる。:達成した</li> <li>・ 建築技術者として、環境問題に対してどのように関わるべきかを理解し、説明できる。:達成した</li> </ul>							
反省点	教室が受講生に対して広すぎたため、前の席に移動させて指導した。 昨年度の反省から、講義の演習を増やした。しかし、演習を事前配付資料を用意してこなかったり、授業中の演習を積極的に取り組まなかったりする学生がいたのは残念である。 補習実施による追加合格者3名。							
来年度の計画	理解度が年々下がる傾向にあるが、学生のレベルにあった内容変更も必要であろう。 座席を指定することを検討する。							
授業評価アンケートに対するコメント	毎回、重要事項の穴埋め形式の資料を配付し、授業の後半30分程度で理解度確認のための小テストを実施した。 講義用の配布プリントを、UNIVERSAL PASSPORTより学生個人がダウンロードできるようにしたが、事前学習の目的が学生に充分理解されておらず、評価点が低かった。 評価はどの項目もほぼ学部平均であった。							
履修登録者数	78名	定期試験受験者数	71名	合格者数	53名	合格率	75%	